

なぜ、犬は読経で黙るのか

副住職の秋田光軌です。今年もお盆・棚経を勤めさせていただきましたが、何軒もお宅を回っていますと、ときおり室内で犬を飼っている方がいらっしゃいます。私がお邪魔しようとすると、ものすごい勢いで吠えられてしまうのですが、犬の側からすれば「あやしい奴がやってきた」と思われても仕方ありません。しかし不思議なことに、私が仏壇の前で読経をはじめた瞬間、どの犬もスッと吠えるのを止め、聞き耳を立てるかのようにじっと様子を伺っているのです。

動物はお経の意味を認識することができません。しかし、私の声が日常的なコミュニケーションとは別の次元に移ったこと、つまり声が〈彼岸の存在に向かっている〉ことだけは感じ取ることができる、という印象を受けました。転じて、私たち人間はことばや行動の意味にばかり囚われていて、〈彼岸の存在に向かっている〉声を感じ取れているとはとても思えません。現代社会において、日常世界と異なる次元に想いを寄せる技法は忌避されることはあるものの、教わること、ましてや実践することはほぼ皆無です。

さて、お念仏とは「心から我が名を称える者は、誰であろうと必ず救う」と誓われた阿弥陀仏、そして阿弥陀仏が建立された西方極楽浄土に想いを寄せて称えるものですが、浄土宗の開祖・法然上人は「念仏を称えるのに、確固たる信心は必要ではない」とおっしゃっています。これは、私たち現代人の宗教に対するイメージからすれば、意外に響くことばではないでしょうか。驚くべきことに、阿弥陀仏や極楽浄土を容易に信じることのできない〈凡夫〉である私たち、そんな私たちのためにお念仏のおしえは説かれているのです。信じているから念仏を称えるのではなく、むしろ、念仏を称えるからこそ信心が育まれていく。念仏という技法を選び取るのは、信心の有無にかかわらず〈今、この私〉が行うことなのです。

「念仏は専門家であるお坊さんに任せるものだ」と思っておられる方がもしらっしゃるなら、今後はご自身が念仏の実践者になってみるのはいかがでしょうか。大いなる他力の救いを願い、彼岸の存在に向けて声を発するのは、誰も代わることのできない〈この私〉です。お仏壇の前でなくても、町を歩いているときやお風呂に入っているときに称えるのもいいでしょう。もしかすると、あなたがお念仏を称えるすぐそばで、犬が聞き耳を立てているかもしれませんよ。

南無阿弥陀仏。



——お父様・均様の通夜の日、東京の最寄り駅まで迎えに来てくださったのが長男・正さん。男3兄弟の長兄は、折り目正しい好青年でした。木村「あの時、母から喪主を務めるよう言われましたが、何もかも初めてのことでした。ご住職をはじめ、周りの方々に支えられて、何とか終えることができました。大変ではありました。皆様からのお陰様を感じることの出来た葬儀でした。今になつて法要の意味が分かってきたような気がしますが、お葬式のときは、儀式がすべて。感銘もしたし圧倒もされました。抽象的ですが私にとってお葬式は、一にして十、十にして一、と感じた儀式でした。」「それまでせいぜい日本史の中で仏教を学んだ程度で、普段の生活においてあまり実感することはなかったのですが、父の死が契機となって身近に意識すること

があります。お念仏やお経を称えていると、父との思い出が思い浮かびます。また仏教の長い歴史に思いを馳せることができます。今は今だけがあるんじゃなくて、歴史の積み重ねがあつて今につながっている。父のお陰を感じる日々です。」

——以来木村家は、お父様の墓前に欠かさず家族4人でお参りになります。東京で働く兄弟は、当然日帰りとなります。木村「正直、近かつたらなと思う事はあります(笑)。しかし、菩提寺は父が還るべき場所であつて、私たちの都合で選ぶ所ではありませんから。檀家の自覚ですか?一応ですが、木村家の19代目とのことで、そのことと併せて自覚をしていきたいと思います。父の死が契機ですが、今後も檀家一年生として、よろしくお願いします。」

——若い世代の中で、お寺やお墓のことなど話題はあがるのでしょうか。木村「ただ今、婚活中でして。女性の方に、自身の家の宗教のことやお墓のことを伝えると、結構引かれます(笑)。正直に身の上を話しているのはあなたが初めてだ、とも女性の方に言われたことすらあります。」

——いえいえ、確かに珍しいことかもしれないが、そういう「信心」をしっかりと受け止めてくれる女性は必ずいるはずですよ。出会いを待ちましょう。木村「父親に生前、この方が私の伴侶です、と紹介できなかつたことが残念です。いつかお寺に参った時に、連れもつて報告をしたいと思っています。そうですね。出会いを待つ。これもまた修行ですね。しっかり努めています。」

ただいま33歳、檀家一年生です。

木村まさしさん(埼玉県狭山市在住)33歳

木村さんは産業用ポンプの会社に勤め、現在は埼玉にて独り住まいですが、月に何度も東京都内の実家を訪ねる母親思いの青年です。一周忌法要のために来寺された木村さんにお話を伺いました。(文責／編集部)。



basic information

仏女、彼岸を知る

もうすぐ秋のお彼岸。
大蓮寺では、秋分の日に開催されますが、
お彼岸とはどういう行事なのでしょうか?
大蓮寺にやってきた「仏女」に住職が答えます。

